

榎ヶ廻Ⅰ・Ⅱ遺跡の発掘調査（成果概要）について

1. 目的

「(仮) 加茂スマートインターチェンジ」の開発予定地内に存在する「榎ヶ廻Ⅰ・Ⅱ遺跡」(周知の遺跡) を発掘調査する。(H30.9.28 試掘調査にて発見)

2. 遺跡概要

遺跡名	調査地	調査面積	調査予定期間
榎ヶ廻Ⅰ遺跡 (まきがさこⅠいせき)	加茂町三代地内	約 150 m ²	令和元年 10 月 25 日から 同年 11 月 30 日まで
榎ヶ廻Ⅱ遺跡 (まきがさこⅡいせき)	加茂町三代地内	約 300 m ²	令和元年 8 月 30 日から 同年 11 月 30 日まで

3. 調査概要

【榎ヶ廻Ⅰ遺跡】

- 調査地は丘陵斜面（周辺の水田との比高差は約 10m）に位置する。
- 遺跡の一部は、昭和期の開墾により壊されている。
- (11/5 現在) 遺構は未検出である。
- 弥生土器（壺 or 甕）の底部片や土師器の小片が少量出土している。

【榎ヶ廻Ⅱ遺跡】

- 調査地は丘陵斜面（周辺の水田との比高差は約 8m）に位置する。
- 丘陵斜面を削平し、「ひな壇状」の平坦面を作っている。
- 平坦面では「柱の根元を埋めるために掘られた穴」や「屋根を伝って軒下に流下する雨水を処理するための溝」、「穴の中で火を焚いたため、壁面が焼けて赤くなった穴」などを検出した。
- 遺跡内からは、9 世紀前後の「須恵器の壺・甕・高台付杯（こうだいつきつき）」といった土器のほかに、「平安時代の役人が正装時に着けた腰ベルト（腰帯）に飾りとして付けていた巡方（じゅんぼう）」が出土した。

※本遺跡から出土した巡方（じゅんぼう）は銅製で、大きさは 1 辺が約 3.3 cm、厚さが約 0.4 cm である。表面には「漆」が塗ってある。過去の出土事例であるが、市内では初（鉄製の巡方は、三刀屋町内に所在する鉄穴内遺跡から 1 点出土している）、県内では 6 遺跡目である。

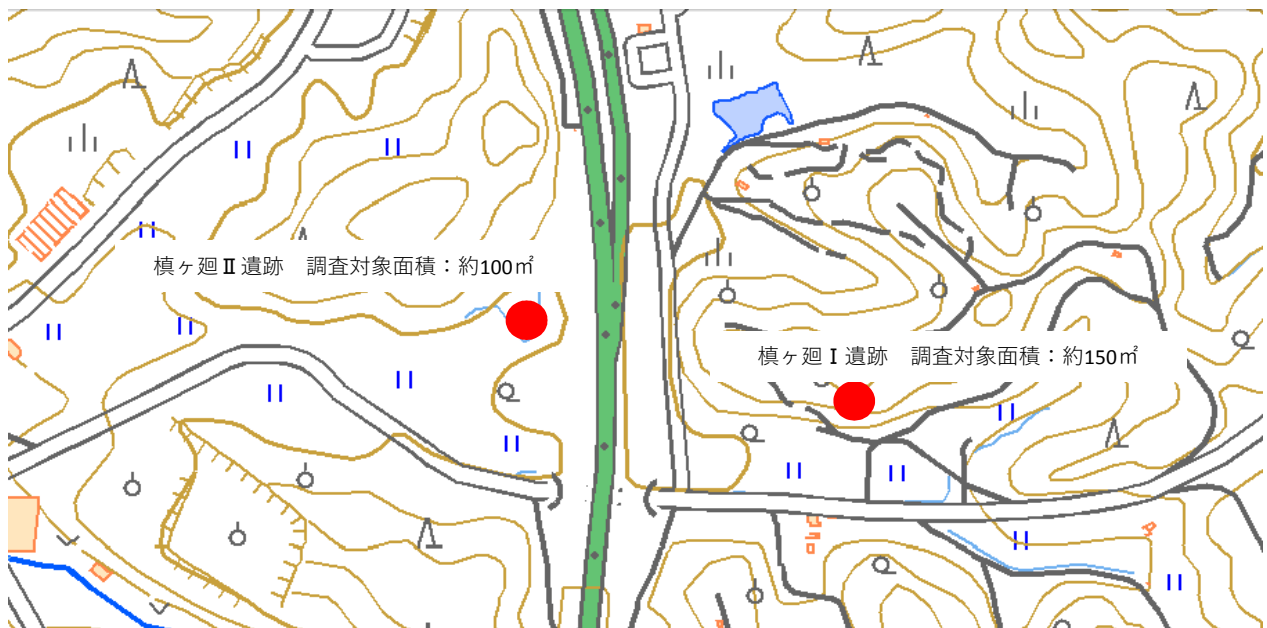
4. その他

令和元年 11 月 30 日（土）午前 10 時 00 分より、現地にて説明会を予定



国土地理院の地理院地図

榎ヶ廻Ⅰ・Ⅱ遺跡 位置図 (「●」は遺跡の位置)



国土地理院の地理院地図

榎ヶ廻Ⅰ・Ⅱ遺跡 詳細位置図 (「●」は遺跡の位置)



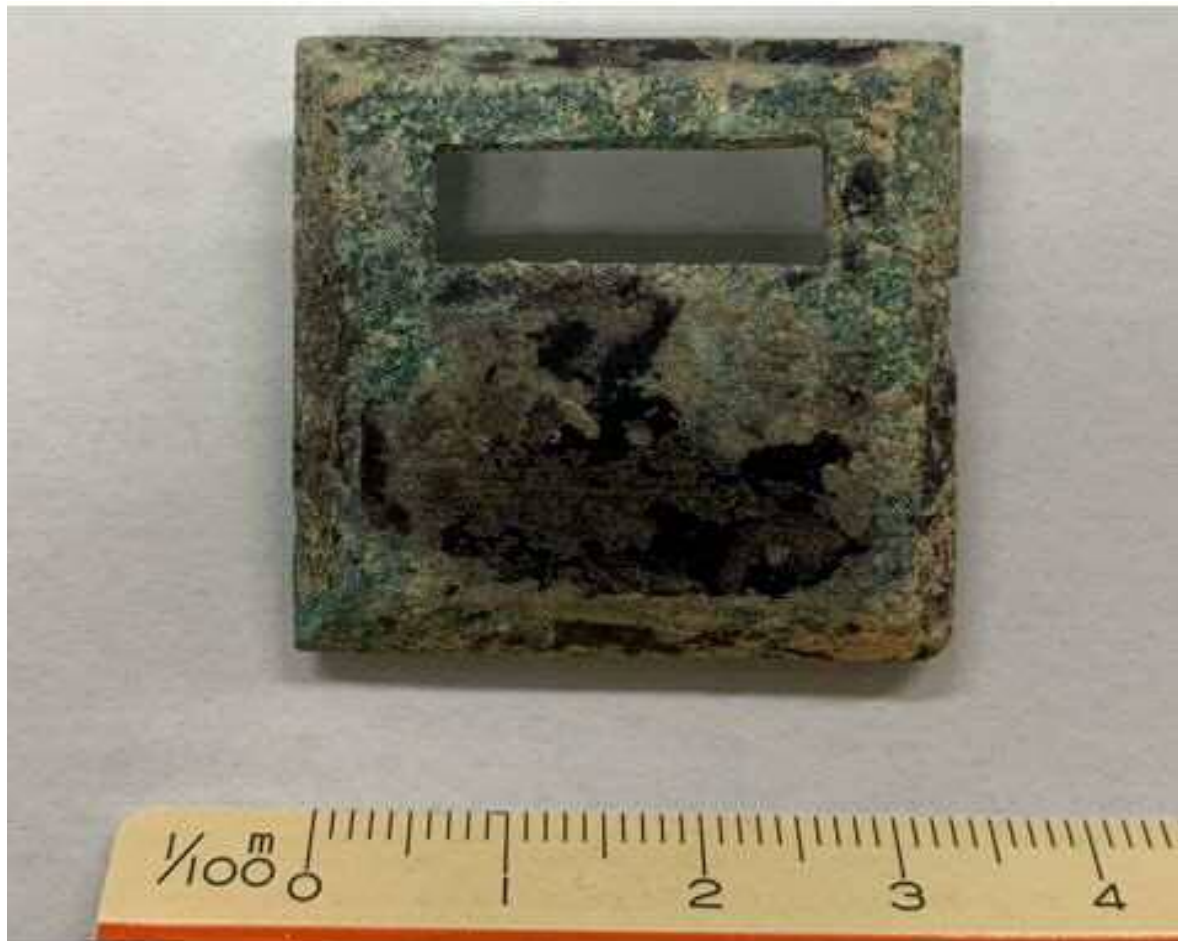
槇ヶ廻Ⅱ遺跡 発掘調査前の風景



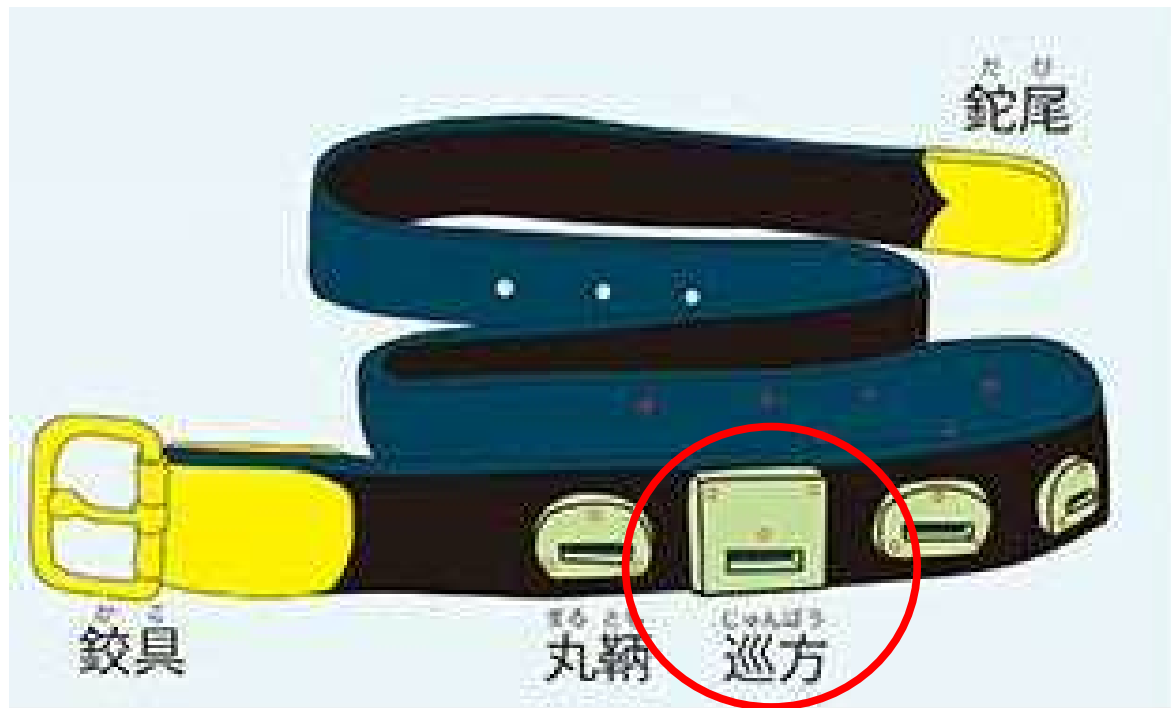
須恵器（甕）出土状況



模ヶ廻Ⅱ遺跡 発掘現場の様子



銅製巡方



これは石帯（せきたい）という奈良時代から平安時代の天皇や公家（役人）の正装（束帯衣装）をする時に腰に着けるベルト（腰帯）に付けられた石製の飾りで、四角い方を巡方（じゅんぽう）、丸い方を丸納（まるな）といいます。出土した巡方が1つと丸納が6つで、これほどまとまった数で出土した例はありません。出土した石帯飾りは変成岩製で長方形の透かしを持ち、表側から革帯にかしめるための白銅製の紙が残っています。石帯飾りの材質や形などから、被葬者は六位または七位の官位に相当するとされ、地方役人では高位の郡司（今の市町村長）クラスの人物にあたります。郡司は地方豪族から登用されました。付近に7世紀後半頃の創建とされる古代寺院も存在したことから合わせると、勢力を持った豪族がこの地域を治めていたと考えられます。

ひろしまWEB博物館（<http://www.mogurin.or.jp/museum/hwm/>）から転載